

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第60号（令和3年6月発行）

令和2年は、3月に第1回定例会、7月に第2回定例会、10月に第3回定例会、12月に第4回定例会が開催され、一般質問で各議員が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

村山繁生議員



主な質問項目
・ ポートビルの活用について
・ 将来の水素エネルギー社会に備えて、四日市港に水素の備蓄・供給施設の整備を！

○私たちの暮らしはエネルギーの大部分を化石燃料に依存し、地球温暖化や資源枯渇のリスクをはらんでいる、安定的なエネルギー確保と地球環境へ配慮の2つの課題を解決する答えが水素エネルギーであり、県は水素エネルギー総合戦略会議を設立し、知事も脱炭素を宣言しているが、四日市港の管理者として必ずや訪れるであろう水素エネルギー社会について、どのような見解をお持ちか。

●国は水素エネルギーの活用をエネルギーの安全保障と温暖化対策の切り札と認識し、水素基本戦略で2050年を視野に、水素社会の実現に向けて将来目指すべき姿や行動計画を取りまとめた。県でも脱炭素社会の実現を目指して「ミッションゼロ2050みえ」を宣言しており、温室効果ガスの排出実質ゼロを目指して水素活用の可能性を検討しなければならないと考えている。港湾管理者としても果たすべき役割はあると考えており、具体的に何をすべきか前向きに検討していきたい。

○水素備蓄供給施設の整備は、関西圏・関東圏で予定されているが、中京圏でもコンビナートを有する四日市のインセンティブを活用し、いち早く検討すべきでは。

●水素エネルギーへの対応は、今後の四日市港のさらなる発展等には大切であり、水素エネルギー社会に向けて、ニーズの高まり、企業の動向、他港での取組状況等を注視し、事業化などの可能性等の情報収集に努めるとともに、必要に応じて県や市の産業部局や環境部局とも連携して、前向きに取り組んでいきたい。

山内道明議員



主な質問項目
・ 四日市港の新しい魅力創出へ！女性活躍の推進
・ 四日市港を更なる環境先進港へ！
・ フェーズフリーの視点を活かして防災力の向上を！

○日常生活でも便利に活用できる防災用品や非常時の電源確保ができるプラグインハイブリッド車など、日常時と非常時という2つのフェーズをフリーにする「フェーズフリー」の視点を活かす取組が行われているが、四日市港においても防災・減災対策に、フェーズフリーの考え方を取り入れていくべきではないか。

●普段使う施設を災害時にも使用できることは望ましいことだが、当初から非常時に機能できる施設として整備するには、相当の費用も伴うといった課題もある。ただし、管理組合の事業においても、フェーズフリーの考えを踏まえた方が、より効果的になるものもあり、そのような事業にはフェーズフリーの考えを取り入れて進めていきたい。具体的な取組事例としては、浜園緑地と富双緑地の連絡路は、自転車や歩行者の周遊性を図るものであるが、非常時には来園者の避難に使用できると考える。また、今後予定しているポートビルの改修でも、例えばエントランスホールを吊り天井から軽い素材の吊り下げ幕に変えることにより、港や三重県、四日市市の魅力をデザインした観光PRへの活用が可能になるだけでなく、合わせて災害時に天井の落下リスクも減少できるのではないかと考えている。日常時でも非常時でも役に立てるフェーズフリーの考え方は、防災対策・減災対策には、非常に重要なことであり、管理組合の様々な業務において、今後も常にフェーズフリーの考え方を意識して、取り組んでいきたい。

山崎博議員



- 主な質問項目
- ・賑わいを創出する、今後の取組
- ・シドニー港との、今後将来の構築
- ・ポートビル12階の活用について

- 新型コロナウイルスの影響を受け、クルーズ船の寄港中止が続く中、港の賑わい創出につながるクルーズ船の誘致等に、今後どのように取り組んでいくのか。
- 今回の新型コロナウイルス感染症に対して、クルーズ船各社は、衛生基準や検査基準をより強化するなどの感染症対策を行い、クルーズ再開に向けて取り組んでいる。また、四日市港客船誘致協議会では、誘致活動の再開の時期も含め、船会社の動向等の情報収集に努めており、国も感染症対策ガイドラインの策定に向けて動き出している。四日市港も、これらの情報収集に努め、今後策定されるガイドラインに則り、クルーズの再開時には速やかに対応できるよう準備を整える。
- 新型コロナウイルスに伴い、移動やイベント開催などに対する考え方も見直されるなど、大きく時代が変わろうとしている今、四日市地区における賑わい創出に向けて、今後どのような展開を考えているのか森副管理者に聞きたい。
- これまで四日市地区では、ソフト、ハードの様々な取組を実施しているが、コロナ渦で新しい生活様式が求められる一方で、賑わいづくりといった観点も地域の活性化には不可欠であり、現在、感染対策を講じたイベントの開催、案内板の設置、トイレや駐車場の整備・検討、「みなとまちづくりプラン」の策定等を進めている。四日市地区の賑わいづくりは、四日市市のまちづくりにもつながることから、市としても積極的に関わり、官民一体となって取り組んでいきたい。

小川政人議員



- 主な質問項目
- ・東海豪雨時の十四川溢水について

- 東海豪雨時の十四川の溢水についてヒューマンエラーという言葉の水谷前常勤副管理者は何度も話している。ヒューマンエラーの相手方に請求するべきではないか。
- 確かに議員と四日市市の裁判で、善管注意義務違反と、裁判官も言っているが、同時に、この浸水は災害であって、その操作と因果関係はないと判断されている。
- 四日市港管理組合がつくった豊栄樋門排水機場排水計画検討業務の中で、大雨が降っても、流下能力よりも大きな水は流れて来ないというのが専門家の調査である。裁判所の大雨が降ったから自然災害だという理屈にはならない。当然、降った雨が全部河口まで流れてこない。前の副管理者が答えるように、ネック点で通過できる水しか流れてこない。どれだけ雨が降っても、その量しか流れてこない。だから、当然災害は起こらない。
- 四日市市のシミュレーションでは、ネック点から16立米流れてくる、その16立米では樋門を開けていても水は溢れる。
- 河川計画上は樋門を開けていたら19トン流れる。河川計画上は。過去の誤りを正すのは鈴木管理者にお願いしたい。
- 被害を受けた方への支援ということについては、一定の基準に基づき、その災害との因果関係等を総合的に考え精査しなければならないと考えている。
- ポンプ場が故障したのは、当然、水門、樋門を閉めていて故障したわけである。

小林博次議員



- 主な質問項目
- ・市民に親しまれる港づくり
 - ・四日市港の発展のために

- かつての漁師の言葉を通して非常に豊かな伊勢湾の姿が紹介されている記録があるが、この伊勢湾をそのような魅力のあるものに私たちは戻していく必要がある。そのための管理組合の取組を聞かせてほしい。
- 管理組合として、国や地元自治体等で設立された「伊勢湾再生推進会議」に参加するほか、清掃船での海上清掃、港内の水質調査、アマモ場の再生試験を行うとともに、エコクルーズやアマモプロジェクト等環境啓発イベントを実施している。
- かつての伊勢湾を取り戻すために色々努力をいただいているが、工業港として埋立し港をつくり海を駄目にしたのでは、後の世代に対し問題がある。以前のようには無理でも、汚した部分はきれいにし、魚や貝が存在し、市民等が来ていただける港にしてほしい。海をきれいにするために、干潟の浄化能力を認識し、整備するべきと考える。まずは、小さな干潟からでも整備できないのか。
- 港湾区域においては航路等の港湾機能に支障があることから、新たな干潟の適地はないと認識しており、現存する高松干潟を保全することが重要と考えている。
- 全長 8km の四日市港は分断されていて使い勝手が悪い。幹線道路を南へ延長し利便性を高める必要がある。沖の島地区を埋立ることによって一体的整備が可能では。
- 同地区を産業用地にするには、陸地との交通施設等の整備費用を勘案した収支見通しや高潮や津波等に対する安全性確保等の課題も多く、非常にハードルが高い。

喜田健児議員



- 主な質問項目
- ・親しまれるポर्टビル
 - ・賑わいの拠点とする四日市地区
 - ・四日市市と四日市港
 - ・四日市港の存在意義
 - ・物流拠点である霞ヶ浦地区

- 四日市地区には J R 貨物の路線があり、J R 四日市駅から旅客を乗せて港まで運ぶという人流アクセスが実現すれば、観光スポットとして注目を浴びる。国の認可等の課題もあるが、全国的には前例もあり、実現の可能性はあるのではないかと。また、県が進めている空飛ぶクルマの実証実験の候補地として四日市港四日市地区はどうか。実証実験は物流のほうがしやすく、四日市港は中部国際空港とも近いことや、耐震強化岸壁があり救援物資の拠点となれるなど利点がある。
- J R の貨物線など、公共のものを違う用途でどう使うかが、今この地方創生あるいはこれからのデジタルトランスフォーメーションとかの中で大変重要になってきており、様々な視野を持つことが大事なので、前例も踏まえ、しっかり研究をしていきたい。また、空飛ぶクルマについては、市の意向もあるが、現在国へ要望している耐震強化岸壁ができたときの防災の観点も非常に重要であると思っているので、市ともよく相談しながら、管理組合としてもよく研究していきたい。
- 港のことは管理組合という認識レベルを壊していく。港自体がうまく機能するために様々な課題を管理組合外の力を借りて解決するしか真の発展は見えてこないと思う。港のことは管理組合が統括しながらも、市や県、民間企業などそれぞれの強みを生かして適材適所で具体的な絵を描き、議論を進めるというスタンスを大事にしていかなければならない。

長田隆尚議員



- 主な質問項目
- ・「四日市港湾計画」の改訂
 - ・物流を支援する港づくり
 - ・人流を創出する港づくり

- 四日市港の総取扱貨物量の拡大に向けて、背後圏と四日市港利用優位圏をどう考え、潜在貨物量の獲得に向けて戦略的なポートセールスをどの地域に向け、どのように行っていくのか。また、コンテナ拡大に向けたポートセールスとそれ以外の貨物を対象にしたポートセールスはどうか、伺いたい。
- 背後圏には、バルク・コンテナ両方の貨物を対象に、三重県を一次背後圏、愛知県・岐阜県・滋賀県を二次背後圏として貨物が積み下ろしされるエリアを設定している。一方、四日市港利用優位圏は、コンテナ貨物に特化し、四日市港の利用により、大阪港・名古屋港と比べて陸上輸送コストが最小になる地域を指す。コンテナ貨物に対するポートセールスは、官民で構成する四日市港利用促進協議会を核に、集荷対策として、セミナー等を開催し、利用優位圏内を中心に既存荷主企業の利用拡大や未利用荷主企業の新規貨物の獲得に取り組むとともに、道路アクセスが向上している滋賀県や岐阜県の一部を重点地域とし、荷主企業訪問を行い、利用の働きかけやニーズの把握等を行っている。また航路誘致対策として、航路誘致補助金制度の見直しを行うとともに、船会社に寄港の働きかけを行っていく。バルク貨物の取扱機能強化やポートセールスについても、保管場所の確保や施設整備に取り組むとともに、県市と連携し四日市港を利用する可能性のある企業動向の収集・分析、機を捉えたポートセールスを行い、利用拡大等に努める。

平野貴之議員



- 主な質問項目
- ・国際港湾戦略「荒波を越えて」
 - ・心ときめくみなとまちづくり

- 四日市港の総取扱貨物量の拡大に向けて、背後圏と四日市港利用優位圏をどう考え、潜在貨物量の獲得に向けて戦略的なポートセールスをどの地域に向け、どのように行っていくのか。また、コンテナ拡大に向けたポートセールスとそれ以外の貨物を対象にしたポートセールスはどうか、伺いたい。
- 背後圏には、バルク・コンテナ両方の貨物を対象に、三重県を一次背後圏、愛知県・岐阜県・滋賀県を二次背後圏として貨物が積み下ろしされるエリアを設定している。一方、四日市港利用優位圏は、コンテナ貨物に特化し、四日市港の利用により、大阪港・名古屋港と比べて陸上輸送コストが最小になる地域を指す。コンテナ貨物に対するポートセールスは、官民で構成する四日市港利用促進協議会を核に、集荷対策として、セミナー等を開催し、利用優位圏内を中心に既存荷主企業の利用拡大や未利用荷主企業の新規貨物の獲得に取り組むとともに、道路アクセスが向上している滋賀県や岐阜県の一部を重点地域とし、荷主企業訪問を行い、利用の働きかけやニーズの把握等を行っている。また航路誘致対策として、航路誘致補助金制度の見直しを行うとともに、船会社に寄港の働きかけを行っていく。バルク貨物の取扱機能強化やポートセールスについても、保管場所の確保や施設整備に取り組むとともに、県市と連携し四日市港を利用する可能性のある企業動向の収集・分析、機を捉えたポートセールスを行い、利用拡大等に努める。